

山陰仏社会報

Sō-Sō

[壮創]

第17号

山陰教区仏教壮年会連盟会報・第17号

【編集・発行】山陰教区仏教壮年会連盟事務局
〒690-0002 松江市大正町443-1 (本願寺山陰教堂内)
電話(0852)21-4747 FAX(0852)27-8351



山陰教区仏教壮年会連盟総会 及び研修会について

理事長 村上 勉

六月十五日に開催しました総会及び研修会の概要を報告します。

総会につきましては、八十名の参加で開催し、平成三十年度事業及び決算報告し承認を得ました。次に二〇一九年度事業計画及び予算(案)を上程し承認を得ました。

質疑では、会費未納及び加盟単位会について、活発な質問があり、執行部として今後地域に出かけて事情調査等を行うことを説明し、今後気を引き締めて執行に当る決意を述べて総会を終了しました。

午後からは、班別に分かれて意見交換会を行いました。

昨年まで実施していた講師を迎えての研修会とは、一味違った各地域をグループ分けし、単位会及び組における活動状況を報告して頂き、地域特性及び活動に対する考え方にも、それぞれ個性があると感じました。話し合いを行うことにより、今まで受け身であった研修会が一味変わった会であったとの参加者の感想も聞きました。

課題としては、参加者が八十名であり、減少傾向であり、参加単位数も減少しており単位会から最低一名の参加があるように、執行部として努力することが、重要であると強く感じました。

ブロック研修会報告

鳥取ブロック研修会に参加して

鳥取因幡組 光輪寺 江谷 栄

二〇一九年度山陰教区仏教壮年連盟鳥取ブロック研修会が八月二十五日鳥取因幡組光輪寺を会所に五十三名の参加で実施されました。

謝し私達がお経を唱え仏法聴聞し阿弥陀様のみ教えに触れる機会

宗の考え方」 木智浩 師

今回のご講師は鳥取因幡組光輪寺住職・佐々木智浩師に「永代経について―浄土真宗の考え方―」をテーマに講義・問題提起を頂きました。昼食後、五班の分散会では一、お墓と仏壇の違いは？二、終活を考えてみよう？をテーマで話し合いました。分散会終了後、ご講師様より纏めのお話を頂きました。

◆今回の研修会で再確認したこと

*死者に対する追善供養はしない

(亡)くなられた方は阿弥陀様のおはたらきにより浄土で仏となり私達の歩む道を照らし・導き共に歩んで下さっているから)

*法要は故人を偲び報恩感



*永代経は末永くお経(仏法)・その教えの道場(お寺)が末永く続くようお願いを込め念仏の教えに接する事を目的とする

*お墓は故人の遺骨を納めお盆・お彼岸・ご命日等、故人を偲び報恩感謝の心を表す場。仏壇は浄土の姿を現し阿弥陀様を安置し私の拠り所を確認する大切な場所

*終活について近年少子高齢化・核

家族化が進みお墓や仏壇の維持管理が出来ない等色々な問題が起こってきています。平素より家族で話し合い共通認識しておく事が大切だと思いました

皆様より色々なお話を聞く事ができて有意義なご縁となりました。ありがとうございました。

出雲ブロック研修会に参加して

松江組 明宗寺 松浦 靖

出雲ブロックは松江組、出雲組、神門組、出雲南組、飯南組の五組で組織されていて、今回研修担当は松江組で本願寺山陰教堂教化センターで開催されました。開会式で佐々木了慎山陰教区教務所長、山陰教区仏教壮年会連盟村上勉理事長の挨拶で始まりました。佐々木所長の挨拶で子ども達の貧困と虐待については宗門でも取り組んでいると話されました。

今回の研修講義テーマ「児童虐待について」で講師は児童福祉職場を中心に勤務された寺本年生氏島根県健康福祉部青少年家庭課児童・家庭相談支援スタッフ上

席調整監で講師が布教使先生でなく、現役の福祉専門官であり大いに関心を持ちました。講義内容は児童虐待の目的(法律)、児童虐待とは(定義)等について説明頂き、児童虐待としつけについて違いを教えて頂きました。しつけ(躾)は子どもの欲求や理解度に配慮しながら基本的な生活習慣・生活能力、他人への思いやりや社会のルール・マナーなど身につけるよう働きかけること、虐待の定義は、あくまでも子ども側の定義であり、親の意図とは無関係子どもにとって有害であれば虐待と教えて頂きました。その他具体的な現状や要因について教えて

石見ブロック研修会報告

浜田組仏教壮年会連盟 理事長 廣崎勝美

二〇一九年度山陰教区仏教壮年会連盟石見ブロック研修会を、二〇二〇年二月一日に浜田市「いわみーる」で開催いたしました。

参加者は大田以西鹿足組の会員

六十五名と（佐々木教務所長・小泉浜田組長・村上教区連盟理事長・营教務所担当）の合計六十九名での実施となりました。

今回の講師は、佐々木教務所長にお願いし、「私たちのちかい」をテーマに講義いただきました。

講義は午後二時より始まり、休憩・質疑応答を挟んで予定通り三時半に終了しました。

今回のテーマ「私たちのちかい」は、ご門主様が、二〇一八（平成三十）年十一月二十三日「全国門徒総追悼法要・秋の法要」において、より広く「念仏者の生き方」のころをお伝えするため、その肝要を短く簡潔な四カ条の言葉にまとめてお示しくださいましたものです。

「私たちのちかい」は、一つ目に「自分の殻に閉じこもることな

頂きました。例えば虐待が子どもへ与える影響、よく見られる被虐待児童の特徴、保護者のリスク要因、子どものリスク要因、養育環境のリスク要因、複層的なリスク要因などでした。最後にまとめとして虐待から守るための五ヶ条として次のように教えて頂きました。一、「おかしい」と感じたなら迷わず連絡（通告は義務Ⅱ権利）二、「しつけのつもり」は言い訳（子どもの立場で判断）三、ひとりで抱え込まない（あなただけでできることから即実行）四、親の立場より子どもの立場（子どもの命が最優先）



五、虐待はあなたの周りでも起こりうる（特別なことではない）

ている者は、いのちの行く先を仏さまにおまかせする姿勢を大切にしながら、改めて「私たちのちかい」を勉強させていただきたいと思えます。

第十二回 第四連区 仏教壮年会員研修会に参加して

大田西組 龍藏寺仏教壮年会 眞野明政

九月七日、八日、山口市湯田温泉ホテルかめ福において一泊二日の第四連区合同研修会が開催されました。中国、四国の五教区より百三十七名の参加でした。開催趣旨は、「念仏者の生き方」の心を体し、自らの生き方を親鸞聖人のみ教えに聞き、仏教壮年会会員として、ともに念仏申す朋友の輪を拡げ、心豊かに生きる社会の実現を目指すというものでした。

第四連区 仏教壮年会員研修会



研修会は、宗祖讃迎作法（音楽法要）に始まり大変おごそかな雰囲気スタートでした。つづいての講話は、熊本教区良覚寺住職本願寺派布教使 吉村隆真氏を講師に「ご親教『念仏者の生き方』に学ぶ」をテーマにサブタイトル（完熟100%の人生に向けて）と題して講話されました。ご講師は布教専修課程（第一期生）で最先端の伝道布教理論を学ばれた後その実践に努められ、法話についての本も三冊出版されており、常に心意が伝わる法話、すなわち伝道というところに腐心されているという印象を受けました。お話は分かりやすく時にはユーモアを交えて話されあつという間の六十分でした。

続いて話し合い法座が十三班に分かれて行われ、四つのテーマ（仏さまとのであい。仏教壮年会に入ってからよかったこと。お寺と私の関わり。講話を聴聞して）から自由選択で話し合いが行われました。それぞれの地域性、寺事情、個々

の生い立ち等から様々な率直な意見が聞かれ、興味深いことでした。一日の日程が終わり夕食時の懇親会では、教区それぞれのアトラクションもあり盛り上がった宴でした。

今回連区の研修会に参加して思ったことは、日々地元の仏社会で活動をする中で、定期的に組、教区、連区、全国区と多数の会員が一堂に集まる研修会に参加して私達の仏社会員としての立ち位置を再確認し、ともに念仏申す朋友の輪を拡げるカンフル剤になればという思いを強くしました。



編集後記

「壮創」第一七回発行にあたり、ご報筆を頂きました方々にお礼申し上げます。

時代は平成へ令和へと変わり二年目と成ります、今年は二〇二十年十二支の最初（子年）であります、日本の歴史を振り返れば、元号にはそれなりの意味があると聞きます、その一部をご紹介します。明治（天下は明るい方向に向かって収まる）

大正（天が民の言葉を嘉納し、政が正しく行われる）

昭和（国民の平和と世界の共存繁栄を願う）

平成（天地内外ともに平和が達成される）

令和（初春の佳き月、空気は清く澄み渡り、風は柔らかくそよいでいる）

今、世界各国において（新型コロナウイルス）発症で多くの方がお亡くなりになっています、ご冥福をお祈り致します、と共に発症している方々の早期回復を。それに伴い各地で集会等自重と成り延期・中止が相次いでいます。

山陰教区仏教壮年会は新年度役員改選の年であります、留任より新任の方のほうが多い年と成り、若手に期待を寄せている所であります。

仏教壮年会から教区の繁栄に繋げて行ければ、さらなる飛躍に、共に念仏申し上げ、

より元気な仏教壮年会を目指しましょう。

鳥取因幡組 浄徳寺仏社 小畑 厚 合掌